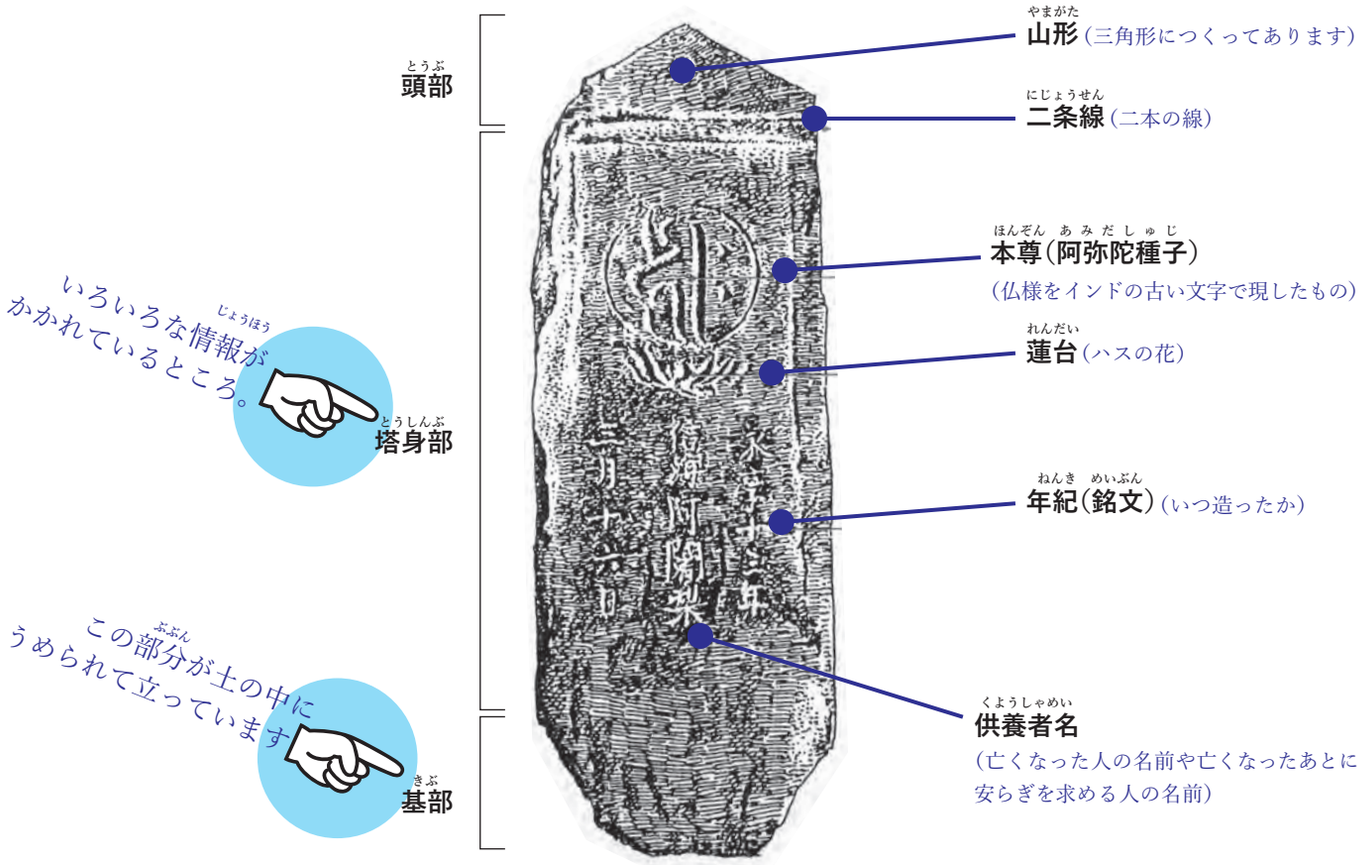
中世の新宿　　新宿歴史博物館 常設展示解説シート❸

板碑って何!?

板碑は、今から約800年前から約400年の間に石をけずって造られた「供養塔」です。「亡くなった人があの世で幸せでありますように、自分が亡くなったときに極楽にいけますように」という願いが込められています。



展示されている「出土した板碑」をよ～くみてみると・・・・！文字の掘られたところが金色に光っていることに気が付きますか？

これは金泥といって金粉を漆にまぜて絵の具を作り、色をつけているのです。　このような板碑は各地で見つかっています。

造られた当時はキラキラと輝いていたことでしょう。

今でもお墓にお参りに行くと、墓石の後ろや横にくねくね文字の書かれた木の板（塔婆）が目に入るかと思います。

これは、板碑と同じで亡くなった人を祈るために作られています。

今も昔も、亡くなったあとに幸せな時がずーっと続くことを人々は願っているのですね。